

算数科部会（低学年の部）

研究主題 豊かな学びを通して、確かな力をはぐくむ算数・数学教育

1 主題について

今年度も、「第51回秋田県算数・数学教育研究（大館北秋田）大会」の研究テーマを受け、引き続きこのテーマで研究を進めることにした。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月10日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月30日	第2回総合研究会 授業研究会（成章小学校）
8月19日	指導案検討会（成章小学校）		

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成26年10月30日（木）
- ・会 場 成章小学校
- ・単元名 1年「たしざん」
- ・授業者 宮野 田鶴子

① 授業者から

- ・1年生にとって一番山場の繰り上がりのある足し算である。つまずく子が多い単元なので力を入れたかった。5分以上時間が延びてしまった。
- ・単元を通して「は・か・せ」（速く、簡単に、正確に）という言葉を意識させて取り組んできた。「は・か・せ」をもっと強調すればよかった。
- ・比較検討する際に、ブロックを1つ動かした方が楽だという考えが出たので、みんなでブロック操作を行ってからまとめにつなげればよかった。
- ・今日のまとめは、振り返りで「小さい方をさくらんぼにすればよいことが分かった。」と書いている子どもがいたので、それを生かした方がよかった。

② 協 議

- ・1時間を通して子どもたちに考えさせる工夫があった。シートの糊付け作業の時間ロスがなければ、まとめをペアになって何回も言わせることができ、より定着を図ることにつながった。
- ・学習のルールが定着し、集中していた。まとめは「小さい方をさくらんぼにする。」の方がよかった。
- ・同じ考えの人同士が集まって自分の考えを伝え合うなど、学び合いができていた。
- ・ブロック図が書かれているシートを配付することで、操作をイメージしながらシートに書くことができていた。



【操作活動後の発表の様子】

- ・低学年は時間との勝負である。低学年に限っては、時間短縮のために色を使わない、めあてやまとめを線で囲まない、などの配慮も必要である。
- ・違う考えの人と話し合うことで、他の方法に気付く子どもが増えたかもしれない。
- ・計算の説明を言えることも大事だが、今の時期はブロック操作に戻ることも大切だと感じた。
- ・ペアでの話合いで「せつめい名人」が手元にあると、自分の考えをしっかりと話すことにつながった。
- ・4つの考えが出たとき、全体でもっと気付きを引き出すと、子どもたちの言葉でまとめることにつながった。

(2) テーマ研究

- ・「確かな学力を身に付けさせるための算数的活動」の実践について、3つのグループに分かれて情報交換をした。

(3) 指導助言（北教育事務所 指導主事 山口 誉）

- ・1年生らしい反応があった。目一杯声を出そうとしていた。自分をアピールして認めてほしいという素直な気持ちが表れていた。
- ・子どもたちを認めてほめる声かけがあった。できていることをあえてほめることが大事である。教師の姿勢として大切なことは、受容と共感であり、間違いがあってもまず受け止めて共感し、みんなでよりよいものにしていくことが大切である。
- ・学習に向かう姿勢がよかった。挙手の仕方、大きな返事、発表者をしっかり見て聞くなど、普段の指導の成果が感じられた。
- ・的確な押さえがあった。さくらんぼ図と言葉による説明をしっかりとノートに書かせながら確認していた。時間をオーバーしないためには必ずしも「文章」にしなくてもよい。
- ・作戦タイムは全ての学年で使うことができる。ノートを見せて伝え合う場も大切である。
- ・ラミネートの説明掲示や発表に集中できる指示棒など教材・教具がすばらしかった。
- ・子どもが発言につまずいた人をお助けするなど、子どもを生かす場面が見られた。
- ・練られた発問があったので、自己判断・自己決定、比較検討する場が設定されていた。
- ・振り返りをしっかり書かせていた。見通しと振り返りは授業で大切にしたい。
- ・「つかむ」から「見通す」をスリムにし、算数的活動を十分に行ってほしい。
- ・本時の課題はシンプルに提示したい。今回は「 $3 + 9$ の計算の仕方を考えよう」でもよい。長すぎるとノートに書き写すときにも時間がかかる。
- ・評価の観点が数学的な考え方なので、「は・か・せ」にこだわる必要はない。本時は、子どもが二つの考え方の相違点や共通点に気付けばよい。本時は練り合う場面が山場である。
- ・評価問題は「 $2 + 9$ 」で2通りのさくらんぼ図で書かせてもよかった。子どもが2通りの説明を行うことで、本時を振り返ることにもつながった。
- ・今日の考えは「たし算」で終わらない。たし算、ひき算、かけ算、わり算につながるキーワードは、「分けて計算し、後でたす」である。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・子どもが「被加数<加数」の場合の繰り上がりのある加法の仕方を理解する際に、どのような指導の工夫をすればよいかについて、話し合うことができた。
- ・確かな学力を身に付けるための算数的活動の実践について、情報交換することができた。

(2) 課題

- ・操作活動と計算の関連付けが図られるように、指導方法を工夫していくことが大切である。